第７回多可町就学前教育・保育検討委員会会議録

１　日時：平成２２年１１月３０日(火)15:00～17：00
２　場所：八千代地域局２階第１会議室
３　出席者：
　委　員　鈴木委員、青山委員、有田委員、安平委員、清水谷委員
　　西田委員、仲田委員、吉田委員、岡本委員、萬浪委員、越川委員
　事務局　岸原教育長、藤本副課長、藤原課長補佐

○　協議内容
・　就学前におけるめざす子ども像
・　めざす就学前教育・保育の姿

委員長	事務局から「就学前におけるめざす子ども像」について関連する資料の説明をお願いする。
事務局	※（「就学前におけるめざす子ども像」についてＰ１～Ｐ７の事務局案及び関連資料の説明をした。）
委員	就学前教育には、遊びの中で学ぶことが多い。
委員	遊びイコール学びだと思うが、小学校では？就学前においては、保護者に関わってもらうのが大事なことである。
委員	そのとおりだと思う。英語などの早期教育よりも子ども同士のコミュニケーション、遊びが大事なことと思っている。しかしながら、保護者は違う方向のようである。
委員	就学前は勉強よりも、遊びのほうが大事である。
委員	遊びを通してして学ぶことだと思うが。遊びと学びは分ける必要がある。豊かな心を育てるために学びがある。
委員	保護者からすると、学びが入るとどうなるか。
委員	遊びの中で集団性を学んでいるので、あえて「学び」を使わなくても良いのでは。
委員	３・４歳の保護者は混合のクラス編成については、遅い方に合わせているので年齢別に保育をしてほしいとの要望がある。親としては、勉強をさせてほしいとの思いがあるが、もっと人と触れあうことにより、必要なことを学ぶことが大事である。
委員	異年齢のクラス編成が良い時期と、同年齢のクラス編成が良い時期がある。
委員	学びを取り入れてほしい親と、反対の親がいる
委員長	学びの環境については、それなりに自然の環境を作る。２年程川遊びを計画したが、川へ下りられない、上がられないような環境になっている。まちづくりの中で、子どもが入れる山、川にしないといけない。その中で、体験ができればよいと思う。渋柿のことを辛いと表現（こまで渋い味の経験がない）する。小さな体験を重ねていくことが大事、遊びが大事、学びに繋がっている。
委員	異年齢保育の良いところもある（発達が違う）０、１、２歳から２歳を外す混合も良いが、年齢別の良いところもある。

委員	親は保育だけど遊びと思っている。実際は教育（学びに）に繋がっている。自然を体験させる、触れ合いさせる為に、職員は工夫をしなければならない。職員による、環境の構成が必要である。周りには、自然がいっぱいであるが、どう自然と気付かせていくかが難しい
委員長	子どもたちが主体的に遊べばよいのだが。
委員	子どもたちだけでは難しい。計画を持ってしなければ結びつかない。
委員長	「主体的に遊ぶ」には、保育者の計画が必要である。
委員	「たくましく生きる」の意味は主体的の意味が含まれる。主体的という言葉を入れるのが良いと思う。
委員長	探しながら、子どもたちが主体的に動く。
委員	好きな遊びの時間は主体的に遊んでいる。ただ好きな遊びの中から、主体性が生まれていると思う。
委員長	さらに小学校にどう繋がるのか。主体的かどうかは行動の判断から生まれる
委員	具体的なものがないとわかりにくい
委員	自然にひたり　ひたれる程時間が確保できるのか。
委員	ここで、はっきりとした保育の方向性が出れば、カリキュラムを作っていくことに繋がる。クリアしなければならないことである。
委員	目標があればそれに向かって動きができる。
委員	遊具で遊ぶことは、森で遊ぶことへの準備であると思う。実際に入って良いけるところがないと。多可町が良いところは、運動場が広い、走り回れること、森に入っていくことよりも現状の保育の場所が良いのでは。
委員	自然とふれることは出来るが、ひたることがそんなに出来るのかな、そこには子どもの実体があると思う。
委員	木の葉が春夏秋冬変わる中でのひたりもある。
委員	四季折々の中で草花虫があり、現状では十分に園庭の中で十分のところもある。工夫次第でどうでも出来ることである。
委員	多可町を愛してほしい。少子高齢化の対策の中、大人になっても多可町を愛してほしい。多可町に住んでほしいそんなことが実現できる教育が必要。
委員	「故郷に錦を飾る」ことを教えてきた。以前はそういった教育をしてきた。
委員	実現には町の方々の支援が必要。
委員	自然を整備することも大事だが、公園の整備が出来ていない。遊具がなくなってきている。小学生が自分で遊びに行く場所が事故が原因でなくなっていく。老朽化で撤去されて鉄棒しか残っていない公園もある。小学生が遊ぶ環境が減ってきており、小学生が保育所に遊びに来る。子どもに「ゲームをするな」と言ってもゲームしかできない環境になっている。
委員	村づくりで子どもが遊べるようなグラウンドを整備してほしいという要望があった。遊具を整備すると管理の問題が出るのでできなかった。事故があると設置した者が悪いとなる。昔は怪我をしたら怪我をした者が悪いとなっていた。

委員	「他人のせいにする」という教育がされてきた。子どもを子どもと思わない親が増えてきた。自然を知らずに育ってきた世代が自然を知らない先生となっている。心の教育をするという原点に立ち返らないといけないのではないか。
委員長	多可町としては「豊かな心を持って自然に接する」という目指す子ども像を設定し、そこから問題点、課題を出していく。まず、就学前における目指す子ども像を「豊かな心を持ち、多可町の自然にふれ、ひたり、主体的に遊ぶ子ども」とする。（一同了承）
委員長	次に、「めざす就学前教育・保育の姿」を考えていく。
委員	キッズランドやちよ教育課程を作ったが今後も見直しが必要。０～２歳は保育のみだが、３～５歳は保育が少し弱いのではないかと思う。
委員長	３～５歳は共通化が図られているので問題がないが、長時間になった時にどうするか。幼保の共通性、小学校との連続性をどうするか。小学校、保護者、就学前教育・保育の三者でどう共通理解するか。小学校との接続が難しいのではないか。
委員	親としては勉強が遅れてはいけないと思う。５歳児のほとんどが字を覚えているのが現状。小学校にとっては字が読めないといけないか。それとも、字を読めることが学習したいという意識を阻害しているのではないか。
委員	(小学校の)就学前の説明会で無理に字を覚えさせないでほしいと保護者に伝えた。変な癖をつけない方がよい。「人をたたいたらいけない」だけでなく、「～だから、～してはいけない」という説明だけをしてほしい。あまり急がなくてもよい。０から２歳児では、歩くのが早い子、オムツをとれるのが早い子など、子どもによって未分化だからジグザグに成長していると思う。急いでやる必要はない。
委員長	①自信を持つ、②友達と仲良くできる、③知るって楽しい、という３つのことが小学校に上がる時に大切なこと。幼稚園や保育所から、保護者にも伝えてほしい。「なぜ」と言う気持ちが起こるように、一つ一つそれを子どもに渡していく作業が主体的に行われることが大事。人間関係を園の中で解決しておくことがすごく大事。自分達でも解決できるという自信をもって小学生に上げる。解決できないままだと不安を持ったまま小学校に上がる。その不安が不満に変わる。小規模校ほど役割の固定化ができやすい。
事務局	※（１１月の入園説明会で保護者に説明した内容を資料を基に報告。）
委員長	あまり保護者の皆さんから不満の声は上がらなかったか。
事務局	登園の際に、小学生と一緒に歩いてきていたことについて意見があった。それとバス停のことについて声を寄せていただいた。
委員長	バス停の決定については保護者の声を受けて決めるのか。
委員	保護者の要望をふまえ決定したい。
委員長	通園のバスについては歩いて行っても、バスに乗っても何でも良いということか。
事務局	保護者の責任で、園まで連れてきていただくか、バスを利用していただくかどちらかだ。

委員	バスの固定費についてはなくなったのか。
事務局	取らないことにした。小学校ではバス代をいただいていないので、固定費を無くした。上限を設けたことで、料金面について不満は全く出なかった。
委員	安くなったので良かったという声は聞く。保育園部へ通わせるという親が多い。
事務局	加美区で３回説明会をし、他市との比較も説明し、ご理解をいただいた。多可町は、子どもには手厚いということを説明した。
委員長	グラフにしてわかりやすくしていただいたので、ご理解いただいたと思う。皆さんの検討結果がこのような形で表れたことを感謝したい。